



天皇、皇后両陛下、皇族方が出席されて行われた「歌会始の儀」(19日午前、皇居・宮殿「松の間」で) 一代表撮影

# 歌会始 和む心歌に

新春恒例の「歌会始の儀」が19日、皇居・宮殿「松の間」で行われた。今年のお題は「和」。天皇、皇后両陛下や皇族方を始め、1万5270首の応募作から選ばれた10人の入選者、選者、天皇陛下に特別に招かれた召人の榮原永遠男・東大寺史研究所所長(77)の歌が古式にのっとった節回しで朗詠された。

宮内庁によると、天皇陛下は全国各地の訪問先で、出会った人々の笑顔を見るたびに自身の心も和む気持ちで詠まれた。陛下は2019年の即位後、皇后さまとともに20都道府県を訪れており、各地での温かい歓迎をうれしく思われているという。

皇后さまは、長女愛子さまが中学時代、修学旅行で初めて訪れた広島県で原爆ドームなどを見学し、平和への願いを卒業文集につづられたことを詠まれた。皇后さまは日頃から平和を願っており、愛子さまの作文に抱いた感慨を歌に込められたという。

愛子さまは、大学の授業で学んだ中古・中世の和歌が、千年の時を経て現代に受け継がれていることに感銘を受けた気持ちを詠まれた。儀式への参列は学業優先のため、見送られた。

宮内庁は今回、4年ぶりに出席者にマスクの着用を求めなかった。コロナ禍前は約100人上った陪聴者は、昨年より増えたものの、25人にとどめた。

## 来年のお題「夢」

宮内庁は19日、来年の歌会始の募集要領を発表した。お題は「夢」で、「夢」の文字が詠み込まれていれば、「夢幻」「夢中」などの熟語や「夢見る」のような訓読みでも可。未発表の自作の短歌で、1人1首に限る。

半紙(習字用)を横長に使い、右半分にお題と短歌、左半分に郵便番号、住所、電話番号、氏名(本名、ふりがな)、生年月日、性別、職業を毛筆で縦書きする。

締め切りは9月30日(消印有効)で、宛先は「〒100-8111 宮内庁」。

封筒に「詠進歌」と書き添える。詳細は同庁ホームページに掲載する。